

《ストップ・リニア 沿線住民の集い》へ！

—東京・神奈川・山梨・長野・岐阜—

「リニア・市民ネット」代表 川村晃生

リニア中央新幹線の建設計画が異様なスピードで進められています。2007年末に JR 東海が2025年(のちに2027年に変更)の開業を目指す計画を発表して以来、国交省の建設指示を受けて、すでに環境影響評価の段階に入りました。その環境影響評価も、僅か2、3年で完了してしまうという、無謀でただのアリバイ作りのようなやり方です。南アルプスを貫通するトンネルの掘削という、自然破壊への重大な影響をもたらすに違いない大工事を伴うにもかかわらず、何ともお手軽に過ぎる環境影響評価です。

しかし、こうしたとんとん拍子に進んでいくリニア建設計画に対し、一方でそれに疑問を抱き反対を唱える声も次第に高まってきています。2009年3月に「リニア・市民ネット」が結成されましたが、それとともに山梨県や長野県、岐阜県などの各地で、リニアに反対する住民グループや個人が意思表示を始め、集会や学習会、シンポジウムなどを行って、住民意識の高揚に努めてきました。

さらに近年では、神奈川県各地域でもリニアに疑念を持つ住民の方々が表れ始め、集会等を催して市民のリニアへの関心を高めようと努力しています。

リニアは様々な問題を抱えています。建設費が見込みよりオーバーするのではないかな？ 過剰なエネルギー量を消費するために原発の稼働が必要なのではないかな？ 電磁波は健康に悪影響を与えるのではないかな？ その他にも南アルプスのトンネル掘削が生態系や地下水にどのような影響を与えるのか？ トンネル掘削の残土はどう処理するのか？ などなど浮かんでくる疑問は際限がありません。

そしてそれぞれの地域の住民は、それらを共通にまた個別に懸念しています。たとえば南アルプス周辺の人々は山の自然破壊とそれによる影響を都市部の人々は大深度地下を通るトンネルや、地上と地下を結ぶ立坑がもたらす影響を、というふうにです。

このように地域それぞれでリニア建設計画に疑問を持つ人々が一度集まってそれぞれが抱えている問題を話し合い、リニアの問題点を浮き彫りにして、それを世論に訴えていこうと、9月30日(日)に山梨県甲府市で集会を持つことにしました。また個別に活動している人々が知り合って交流を深め、横に繋がることで、リニアへの疑問の声をさらに高めていこうと考えています。

山梨県では、いま実験線の延伸工事が着々と進んでいます。実験線と言っても、いずれ本線になるものですが、その延伸工事の現場調査などもふくめて、地域の報告集会を行う予定です。

リニア反対の運動の波をさらに大きいものにしていくためにも、9月30日、ぜひとも甲府にご参集下さい。